

革新的技術フォーラム ～公共建築物のメンテナンス効率化技術～開催結果

- 6月9日、国民会議の取組として初めて公共建築物のメンテナンスの効率化を図る技術をテーマに革新的技術フォーラムを開催し、自治体の課題や民間の技術開発動向について議論を行った。
- 今後、本フォーラムでの議論を踏まえて、公共建築物のメンテナンスの課題を解決する技術の活用による自治体等の施設管理者の課題解決に向けて、さらに幅広く活用可能な技術について議論していく。

開催概要

〈プログラム〉（6月9日（金）14:00～17:30）

趣旨説明、国の施設の取組、自治体の施設管理の現状、建築物の点検におけるドローンの活用、民間企業等からの技術のプレゼン、討論、各班発表、総括

〈参加者〉

約60名（自治体6名（福島県、坂東市、東京都葛飾区、静岡県）、民間企業等42名、建築研究所、実行委員、国土交通省、文部科学省）

〈民間企業等から紹介された技術〉

建築物の点検に活用できるドローン、建築物の効率的な点検を実現する技術



プレゼンの様子



班別討議



総評（国立研究開発法人
建築研究所 宮内主任研究員）

テーマ	討議の結果
自治体の課題解決への取組	・ 技術を使って情報を整理・活用して必要な予算を確保していくことが必要。 ・ 少ない予算で行う簡易な外壁の調査では全部の劣化部分の数量を調べられないので、ドローンなどで全数調査ができればよい。 ・ 外壁の浮きが判る技術があるとよい。 ・ 既存の情報を使えるデータにするため、データ管理に民間を活用してはどうか。
民間における技術開発の取組	・ ドローンを使って外壁の劣化状況の全体像がわかれば予算要求の説明に使える。 ・ 施設管理者がどのような基準で劣化を判断しているのかの情報が欲しい。 ・ 土木の技術の情報を共有していくべき。 ・ ドローンは音やプライバシーの問題も解決すべき。 ・ 市街地でドローンを飛ばすにはドローンの操縦訓練も重要。
今後のフォーラムの展開について	・ 新しい技術の検証が不足していることから、自治体の建物での現場試行を検討する。 ・ 材料など他の技術やテーマを扱うことを検討する。 ・ 共通の場で技術開発の成果の確認を行う取組が必要であり、類似技術の比較表の作成等を検討する。 ・ 自治体のニーズを踏まえた官民・民民のマッチングが進むよう取組を検討する。